

予算等審査特別委員会

一般会計補正予算

誰もが集える居場所

問 子どもの居場所づくり推進事業費補助金の内容は。

答 誰でも気軽に集える「子ども食堂」の運営を支えるため、活動団体に補助金を交付する。人件費や食材を除く経費のうち、新規開設で50万円、機能強化で30万円を上限に補助をする。

問 活動の状況は。

答 現在は、遠野町と松崎町の2か所。子ども達が手作りの温かいご飯を食べられるだけでなく、宿題をしたり、遊んだり、保護者や高齢者の交流の場にもなっている。地域のニーズや運営者によってスタイルは異なるが、みんなが安心して過ごすことができる居場所のひとつとなっている。支援を必要とする子どもが多いというわけではないが、この民間主体の取り組みを市内の全域に広げていきたい。



6月22日オープンのわいわい食堂（青笹わいわい館かだるべ）

風しんから大切な人を守ろう

問 風しんの抗体検査と予防接種を促す目的は。

答 これまで定期予防

接種を受ける機会がなかった40代から50代の男性を中心に、風しん患者が増加している。感染拡大を防ぐために本年度は昭和47年4月2日から昭和54年4月1日までに生まれた男性1070人ほどを対象に、風しんの抗体検査と予防接種を原則無料を実施する。

問 風しん感染で心配されることは。

答 妊娠中の女性が感染すると、赤ちゃんが先天性風しん症候群になる可能性が高くなる。

※妊娠初期に感染すると、生まれてくる赤ちゃんが先天性心疾患、白内障、難聴を特徴とする先天性風しん症候群をもつて生まれてくる可能性が高くなる。

問 多くの方に検査を受けさせる取り組みは。

答 無料クーポン券を配布する。広報やホームページでも周知を行

予算等審査特別委員会（議長を除く17人の議員で構成、委員長多田勲議員、副委員長照井文雄議員）は、条例8件、予算2件、その他2件について付託され、審議を行いました。

条例一部改正

医療費の現物給付を小学生まで拡大

問 病院等での支払いがどう変わるのか。

答 これまでは、小学生が受診した場合、窓口を受給者証と助成給付申請書を提出し、2か月後に自己負担額を超えた医療費が給付されていた。

条例改正により、8月以降は県内の病院等

問 この改正で期待されることは。

答 窓口での一時負担が軽減されるほか、病院へのかかりやすさから早期治療により、重症化・慢性化を抑制する効果が期待できる。

であれば、受給者証の提示のみで自己負担額までの支払いとなる。これは、現行の未就学児、妊産婦に加え、小学生まで拡大するものである。

新たな移住策

問 地方創生移住支援事業費の内容は。

答 東京圏から移住した場合一世帯につき100万円、単身の場合60万円を補助する。今回の予算は、世帯移住1件、単身移住2件で、合計220万円を見込んでいる。

問 東京圏に限る理由は。

答 一極集中をなくす

う。今回対象にならない昭和37年4月2日から昭和47年4月1日生まれの男性でも申し出により、無料クーポンを発行する。

また、対象者以外の男性や女性には、昨年

から市独自で予防接種費用の半額を助成する制度があるので活用していただきたい。

新たな移住策

問 職種についての制限は。

答 県が選定した中小企業等への就業、起業支援金の交付決定を受けた方が対象である。公務員、大企業は除外される。

小中学校エアコン設置は年度内に

問 設計業務委託は当初予算に計上できなかったのか。

答 市独自で設計する予定であったが、学校ごとに校舎の構造も異なり、教室ごとに専門的な熱負荷計算を行う必要もある。快適な学校環境を整備するため委託が必要と判断した。

問 設置時期は。

答 年度内に完了する予定である。

問 今年の暑さ対策は。

答 扇風機の利用、健康管理や水分補給の指導、風通しの良い場所での授業等、昨年に引き続き児童生徒の安全、快適な学習環境に取り組み。

市民サッカー場B面も人工芝へ

問 ホスタタウン会場整備事業費（2億7千500万円）の内容は。

答 JFAやtotoの助成金（4650万円）も活用してB面も

人工芝にする。

問 メンテナンス費用は年間いくらか。また、張替にはいくらかかるのか。

答 現在A面は、年間30万から50万円かかっている。人工芝の耐用年数は10年、その張替には1億円程度見込まれる。

問 人工芝化による経済波及効果は。

答 今現在、年間2億円以上の経済効果が試算されている。整備後、それ以上が期待できる。また、大学の合宿の誘致が決まっております。1千万円以上の効果が見込まれる。交流人口を増やす努力をしていく。

問 夜間照明の改修が必要では。

答 A面夜間照明も36年が経過し、経年劣化による改修が必要となつてくるので、B面とあわせ総合的に検討する。



東京2020パラリンピック競技大会に向けた事前合宿で汗を流すブラジル代表チーム